

「風に立つライオン」

急激に円安が加速し、生活必需品や食品の値上げが止まらない。政府・日銀の金融政策の方向が庶民を向いているのかどうか、疑問視せざるを得ない。

日銀黒田総裁は、「家計の値上げ許容度も高まってきている」と発言し、バッシングにさらされ発言を撤回した。その発言に誰かが経済学的に正しいと擁護し、国際政治学者三浦瑠麗は、「日本全体の家計なら事実、感情論での反論はやめたほうがいい」とめざまし8でコメントした。それを聞いて、パレートの法則を思い出した。富の8割が2割の富裕層に所有されているという話だ。端的に言い換えれば、2割の富裕層には値上げは影響ないが、8割の庶民は強烈な影響を受ける。だが、もし富を平等に分配すれば値上げの影響はないという理屈になる。三浦瑠麗は値上げの影響受けにくい富裕層に近い。故に、庶民の方向を向いた発言・コメントはでない。庶民は感情論で反論しているのではない。学者特有の上から目線が腹立たしい。

いつからか、日本は時事対応に疎い国になったのかと感じる。

コロナの後手続きの対応で、菅さんが総理の座を失ったことは新しい。マスクはどうか、自己判断でもいいが国民は専門家の見解を求めている。また、夫婦別姓はどうなっているのか、条件付きで容認すればいいはずだが、結論を出そうとする動きが国会にない。また、同性婚も時代の流れの中で容認すべき時が来ているのではないか。日本の裁判所は認めようとしませんが、オランダは20年も前に認めている。ジェンダーへの動きも世界は早い。国際水泳連盟は、男女別部門のほかにジェンダー部門を設けるらしい。

まだまだある。20年に及ぶ実質賃金の低迷をどう打開するのか、本気で庶民にリスクのある投資を勧めているのか。すべて政治の停滞である。選挙の小選挙区制への改悪で国会議員も自らの保身に専念し始めているのだろう。渡良瀬川での足尾銅山事件に奮闘した田中正造のような国会議員の登場を願いたいところだが。

そう言えば、20年ほど前にさだまさしが「風に立つライオン」で、「・・・やはり僕たちの国(日本)は残念だけれど何か、大切なところで道を間違えたようですね♪」と歌っていた。彼は何を指していたのだろうか？

(丹羽 豊)